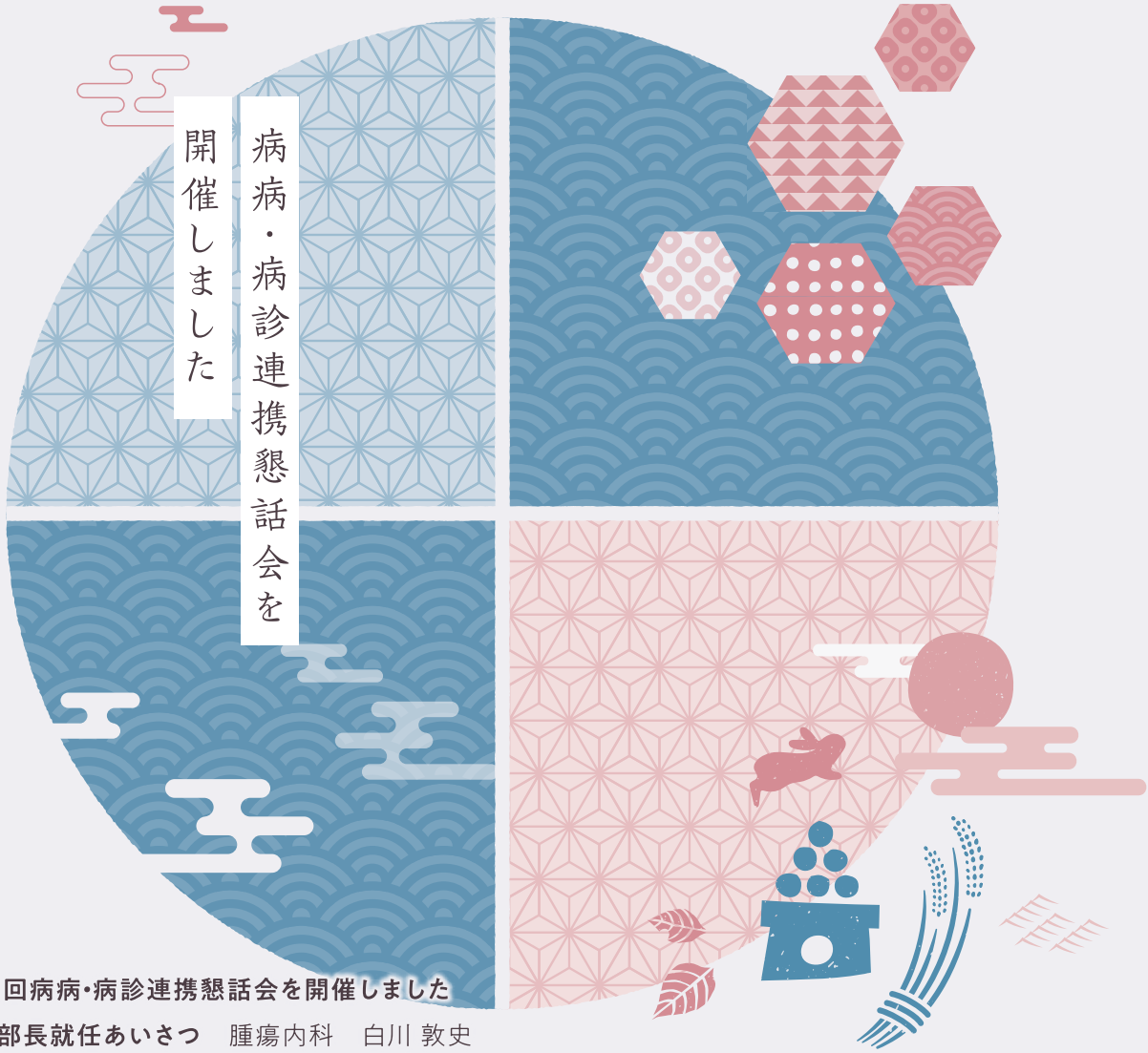
日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
京都第二赤十字病院

vol.16
2024.8

地域医療連携だより

かまんざ



2 3 第35回病病・病診連携懇話会を開催しました
4 新任部長就任あいさつ　腫瘍内科　白川 敦史
高度救命救急センターの指定をうけて
5 Red Crossニュース
スクラムを組む医療従事者たちVol.9　IBDチーム
6 トピックス、お知らせ

当日紹介・予約・診療に関するお問い合わせ
地域医療連携係 TEL 075-212-6186
平　日　8:30～19:30
土曜日　9:00～13:00

第35回 病病・病診連携懇話会を

院長
小林 裕による挨拶

上京東部医師会
飯田 明男会長によるご挨拶

副院長
魚嶋 伸彦による講演

2024年7月18日、ホテルオークラ京都にて、第35回病病・病診連携懇話会を開催いたしました。懇話会には地域のクリニック、前方・後方連携病院の先生方および職員の方々163名、懇親会には154名の参加をいただきました。

懇話会は、小林裕院長および上京東部医師会飯田明男会長のご挨拶のあと、第Ⅰ部において、地域医療連携・入退院支援室長 魚嶋伸彦から「当院における地域医療連携の現状について」と題して、WEB予約システムの導入、医療機関からの当日緊急受診依頼に対する対応および救急患者の転院搬送に関する協定締結など当院の現状を紹介いたしました。続いて、3名の医師が各診療科の重点的に取り組んでいる課題について紹介させていただきました。まず、本年4月に新たに赴任しました第3外科谷口史洋部長から「膵癌の克服をめざして～チャンスを失わずに～」と題して、膵癌に対する術前化学療法+放射線療法、その後のコンバージョン手術および高齢者膵癌に対する手術に関して、これまでの経験や治療成績を踏まえて講演させていただきました。続いて消化器内科の萬代晃一朗副部長からは「膵癌の早期診断への取り組み」と題して、膵管拡張、膵嚢胞、膵管狭窄、膵実質の限局性萎縮など膵癌早期診断のための画像診断のポイント、早期診断のための膵管チューブ留置による膵液細胞診（SPACE）の積極的な導入および新しい膵癌腫瘍マーカー（apoA2アイソフォーム）について紹介させていただきました。最後に循環器内科の瀧上雅雄医長からは「ここまで進化した!リードレスペースメーカーの紹介」と題して、心室内に埋め込むリードレスペースメーカーについて実際の症例の動画

開催しました

地域医療連携・入退院支援室長　魚嶋 伸彦

第3外科部長
谷口 史洋による講演

消化器内科副部長
萬代 晃一朗による講演

循環器内科医長
瀧上 雅雄による講演

筑波メディカルセンター病院 副院長
中山 和則様によるご講演

懇親会

を示しながら紹介させていただき、最近導入しました新しい経皮的補助循環装置IMPELLAについても言及させていただきました。

第Ⅱ部では、筑波メディカルセンター病院副院長・事務部長の中山和則様から「何を変える!! 地域医療連携～2024年度トリプル改定+1の影響～」という演題名でご講演いただきました。ポストコロナ時代に生き残れる急性期病院として病診連携を深め入院につながる紹介患者の確保、後方連携病院との密なコミュニケーションによる受け入れと入院ベッドの確保がいかに重要であるかを説明いただきました。また、患者さんに選ばれる病院になるための広報活動、企業、回復期リハビリテーション病院や自治体とのコラボの試みを紹介いただきました。今後、当院が地域のクリニックや病院様と連携を一層深めるためのヒントを多くいただきました。

懇話会の後、場所を移して多くの先生方や病院職員の方々にご参加いただき、懇親会を開催いたしました。飯田明男会長による乾杯のご発声の後、約90分にわたり歓談の場を持つことができました。会の途中には新副院長ならびに新任部長が壇上にてそれぞれご挨拶をさせていただきました。懇親会は地域の医療機関の方々との文字通り顔の見える地域連携に大いに役立ったものと考えています。

地域医療連携・入退院支援室では、今後一層地域医療機関との連携強化に貢献したいと考えています。今後ともご指導を何とぞよろしくお願い申し上げます。

新任部長 就任あいさつ

患者さんに応じた最適ながん診療を、がん薬物療法専門医が提供します

このたび腫瘍内科部長に就任しました白川敦史と申します。がん領域における近年の治療開発は目覚ましいものがあり、特に薬物療法に関しては毎年のように新しい治療薬が承認されています。また、同じがん種でもバイオマーカーによって治療薬を使い分けることが多くなり、薬剤選択も複雑化しています。このような状況において、がん薬物療法専門医の存在は不可欠であり、当院では腫瘍内科が中心となって最新の薬物療法を提供できるよう対応しています。また、がんゲノム医療や遺伝性腫瘍に関するカウンセリングも実施していますので、がん患者さんがおられましたら当院へご紹介いただけますと幸甚です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

所属学会 認定資格

- 日本臨床腫瘍学会指導医・がん薬物療法専門医
- 日本消化器病学会専門医
- 日本消化器内視鏡学会専門医
- 日本内科学会認定内科医

高度救命救急センターの指定をうけて

当院の救命救急センターは、昭和53年に京都で最初に設けられた救命救急センターの一つとして、重症患者の治療だけでなく地域医療を担ってまいりました。このたび、京都府より令和6年4月に高度救命救急センターの指定を受けました。

高度救命救急センターの指定を受けたことで、これまで以上に重症患者の急性期治療を専門に担う救急医療を提供することはもちろんですが、これまで通り地域医療に貢献するために医療圏の二次救急施設としての役割を担っていくことも必要であると考えています。

当センターは、重症外傷センター・包括的脳卒中センター・心臓血管センターを併設しており、救急科だけでなく、脳神経内科/外科、循環器内科、心臓血管外科などが迅速に重症病態に対応できる体制をとっています。また、時間外/休日などは、さまざまな科の医師が高度救命救急センターの診療に携わり、各科オンコール体制のもと、24時間365日、救急医療に取り組んでいます。現在、救急科には常勤医が14名在籍していますが、自己完結型救急を実践しており、重症外傷を含むAcute Care Surgery、血管内治療、集中治療は、それぞれの救急科医員がサブスペシャリティを持ち、その治療を行っています。

今回の指定を受け、皆様からさらに信頼される高度救命救急センターとしての役割を遂行できるように気を引き締めて、地域医療に貢献してまいります。今後とも連携も含めてよろしくお願いいたします。

高度救命救急センター所長　石井 亘

IBDチーム

京都第二赤十字病院 IBDチームのコンセプト

理念

IBD患者さんの幸せに貢献する

基本方針

- 長期にわたる治療の継続と負担軽減に貢献する
- 専門性を高め、正しい知識を啓蒙する
- 多様な検査・治療法を適切に提供できる環境を整える
- 患者さん自らが社会貢献できるように援助する

消化器内科では、急性期・慢性期を問わず、幅広い臓器と疾患に対応していますが、その中でも炎症性腸疾患（IBD）は特に専門性が高まり続けている疾患であるとともに、患者数も増加の一途をたどっています。特に若年者で発症する割合が多いこともあり、地域において当科の果たす役割は大きいと考えています。実際に、多くの患者さん、そして地域の実地医家の先生方に当科を選んでいただき、定期通院されているIBD患者さんは2021年と比較して1.5倍以上に増加しています。

そんな中、本年4月から一般社団法人日本炎症性腸疾患学会の専門医制度が開始となりましたが、当院は京都府内で6施設の「指導施設」の一つに、消化器内科の堀田祐馬医長は「IBD指導医」に、それぞれ認定を受けました。改めて、京都市内における難治性IBD症例の受け皿としての責任を実感しており、より多くの患者さんの役に立てるよう、さらなる体制の強化に努めてまいります。

IBDは原因不明の難治性疾患であり、潰瘍性大腸炎、クローン病が2大疾患となっています。共通する特徴として ①若年発症することが多い ②疾患・生活面いずれもプロブレムが多彩、ということがあげられ、主治医ひとりの力で患者さんの多種多様なニーズや課題に対して十分な対応をすることは時に困難な場面があります。

当科では、あらゆる診療科と垣根の低いスムーズな連携を実現しており、腸管のみならず皮膚、関節、眼などに起こり得る腸管外合併症に対しても専門的かつ速やかな対応をしていますし、IBD患者さんの出産についても対応が可能です。また、2021年8月に11職種（医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・社会福祉士・公認心理師・放射線技師・生理検査技師・臨床工学技士・医療事務・医師事務作業補助者）で立ち上げましたIBD多職種チームも今夏に3周年を迎えました。これまで取り組んできました高品質・高精度な内視鏡検査はもちろん、腸管の炎症の状態を非侵襲的に把握する便検査や、被ばくのない小腸MRI検査、緊急で簡便に行うことができ侵襲の少ない腸管超音波検査など、当科の恵まれたリソースを活かして場面場面に応じた最適な検査法を提供することに努めています。また、近年次々と新薬が登場している領域ですが、薬剤部の協力のもと、そのすべての治療法に対応しており、新規薬剤の治験についても積極的に取り組んでいます。

これからもIBDチームは「IBD患者さんの幸せに貢献する」をコンセプトに、地域の患者さんたちに質の高い医療を提供してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

IBDチーム各職種の高い専門性

外来・病棟看護師	ゲートキーパー（窓口、調整）、内視鏡検査
化学療法室看護師	インフリキシマブ、ベドリズマブなどの点滴薬物療法
薬剤師	服薬指導、内服遵守、副作用・相互作用のチェック
管理栄養士	食事・栄養指導
社会福祉士	就学・就労支援
公認心理師	抑うつ、不安などの精神的支援
放射線技師	小腸MRI
生理検査技師	腸管超音波検査
臨床工学技士	血球吸着療法
医療事務	医療費助成制度、生命保険などの事務手続き
医師事務作業補助者	臨床個人調査票・患者データベースの作成支援

トピックス

Rezūm™システムを用いた 経尿道的水蒸気治療（WAVE治療）を開始しました

泌尿器科
部長
邵 仁哲

メリット

- 術後の出血や痛みなどのリスクが小さい
- 尿道粘膜や性機能の温存が期待できる
- 基礎疾患や高齢などにより周術期リスクの高い患者さんにも適用できる

当科では、2024年7月からRezūm™システムを用いた経尿道的水蒸気治療（WAVE治療）を開始しました。WAVE治療は、経尿道的にデリバリーデバイスを挿入し、前立腺組織内に水蒸気を噴霧することで、肥大組織に熱変成を起こさせ壊死させます。壊死した肥大組織は、1～3カ月ほどかけて自然に吸収され、肥大した前立腺が縮小することで、下部尿路症状の改善が期待できます。手術時間は15分程度と短い一方、カテーテル留置が数日間必要となります。

従来の手術療法の適用となりにくい「全身状態不良のため合併症リスクが高い症例」や「高齢もしくは認知機能障害による術後せん妄、身体機能低下のリスクが高い症例」に対応することができます。患者さんの負担をできる限り軽減し、より良い治療を安心・安全に実施してまいりますので、引き続き気軽に当科までご相談ください。

お知らせ

同一システム導入
（府立医大・京都第一日赤・京都第二日赤）

サクッと楽に予約が出来る

SAKU洛連携
Web予約システム

令和6年7月1日よりWeb診療予約システム（SAKU洛連携）の運用を開始いたしました。当システムは、京都府立医科大学附属病院・京都第一赤十字病院と合同導入し、紹介元医療機関さんは、3病院の診療予約取得が可能となります。詳細は地域医療連携係(TEL075-212-6186)までお願いいたします。

WEB予約システムのメリット

1. 24時間365日 予約取得可能（携帯からの予約取得不可）
2. 予約取得時間の短縮 ▶ 紹介元医療機関で予約票が発行可
3. 予約空き情報が可視化できる ▶ 予約空き状況の問い合わせ確認不要

※今までどおりFAXでのご予約も可能です。

お問い合わせ先
京都第二赤十字病院 地域医療連携係
(075)212-6186

地域医療連携だより
かまんざ
vol.16 2024.8

京都第二赤十字病院 地域医療連携・入退院支援室
〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町355番地の5
TEL 075-212-6186 FAX 075-212-6358 WEB https://www.kyoto2.jrc.or.jp